



強く やさしい柏崎

— 柏崎市 —

■ 柏崎市のあゆみ

柏崎市は、昭和15（1940）年、新潟県で5番目、全国で162番目の「市」として発足し、令和2（2020）年に市制施行80周年を迎えました。米山・黒姫山・八石山の刈羽三山と西山連峰の山々から豊かな恵みを受けつつ、福浦八景や砂丘地など変化に富んだ42kmの海岸線から佐渡島を望む風光明媚な地方都市です。

■ エネルギー・ものづくり産業のまち



明治時代に周辺地帯から石油が噴出したことにより、製油会社の設立が相次ぎました。石油産業のまち（柏崎1.0）、原子力産業のまち（柏崎2.0）を経て、現在は再生可能エネルギーと原子力発電が共存し、成長が期待される「環境・エネルギー産業」を生み出す段階（柏崎2.5）です。太陽光発電や蓄電池の導入を促進するとともに、水素エネルギーなどの次世代エネルギーも活用しながらその先にある「脱炭素のまち柏崎3.0」を見据え、環境・経済両面で持続可能な社会を目指します。

また、柏崎市は自動車部品製造を中心としたものづくりのまちとして、長きに渡り日本経済の一角を支えてきました。世界的なカーボンニュートラルの動き

の中で、市内事業者も脱炭素に向けた取り組みを進めています。市は、再生可能エネルギー電力の調達に係る費用を補助するなど、ものづくり産業を力強くバックアップしています。

■ 子育て・教育のまち

1歳児・2歳児の保育料無料化や男性の育児休業奨励金など、独自の子育て施策でパパとママの子育てをサポートしています。

室内の遊び場「キッズマジック」も市営化して無料にしました。令和7（2025）年4月には、施設面積を2倍に拡張し、柏崎産木材などを活用した遊具で楽しみながら、子どもたちが「柏崎の木」のぬくもりを感じることのできる空間を創りました。また、遊具も全面



改修し、乳幼児から小学生まで安全に遊ぶことのできる施設として生まれ変わりました。

小・中学校では、自分の力で夢をつかめる子どもを育成するため、「学力向上推進プロジェクト」を進めています。子どもたちの主体的な課題解決を目指す授業や、市独自に実施する学力調査の結果を基にした授業改善を行うなど、教師も子どもも学力向上に取り組み、全国平均を上回るレベルになってきました。

■海の花火が美しいまち



柏崎が熱気に沸く3日間。7月24日に民謡街頭流し、25日に山車やみこしが繰り出すたる仁和賀と続き、クライマックスを飾るのが26日の「海の大花火大会」です。

越後三大花火大会の一つに数えられ、海を舞台にした花火大会としては、柏崎ほど打上範囲が広い会場は他にありません。

江戸時代末期、京都の八坂神社の流れをくむ柏崎の八坂神社が、祭礼に花火を打ち上げたのが始まりといわれています。明治、大正、昭和、平成、令和と時代が移り変わっても、柏崎の夏の風物詩として市民に親しまれてきました。

日本海の夕闇をスクリーンに、海に向かって打ち込まれる「海中空スターメイン」、長さ600mの堤防を使った「ワイドスターメイン」、そして大迫力の「尺玉100発一斉打上」「怒涛の尺玉300連発」など、海の柏崎ならではの花火が1夜で1万6千発打ち上がります。空を埋め尽くすほどの豪華絢爛な花火をどうぞお楽しみください。

■世界が認めた綾子舞のまち

綾子舞は、女谷地区で約500年前から伝承されてきた古雅な民俗芸能です。昭和51（1976）年に第1回の国の重要無形民俗文化財の指定を受け、令和4（2022）年11月には綾子舞を含む「風流踊」がユネスコ無形文化遺産（人類の無形文化遺産の代表的な一覧表）に登録されました。

著しい過疎化により、綾子舞の担い手の確保が難しくなり、昭和45（1970）年から小学校や中学校で「綾子舞伝承学習」が始まりました。また、平成3（1991）年度からは、綾子舞に関心を寄せる市民が直接伝承者から指導を受ける「伝承者養成講座」がスタート。毎年9月に行われる現地公開や依頼公演などへの出演を目標に、大人と子どもと一緒に舞や笛・太鼓などの技術を磨いています。

